

《報告》

2018年度ジェンダー・ワークショップ「何!?カフェ」実践報告

Putting the 2018 “What!?” Café” Gender Workshop into Practice

1. 概要

ジェンダー・ワークショップ委員会は、2014年秋学期に始まったGEC設置全学共通副専攻「ジェンダー研究」全体活動の一部として、ジェンダー研究に関心を持つ学部生、院生が中心となって組織し、運営している。毎年、メンバーは変わりながらも、ジェンダーやセクシュアリティについての自由な話し合いを通して、仲間としての関係を築きながら、学びあうためのワークショップを開催してきた。

2018年度は、2017年度に引き続き、ジェンダー・ワークショップの活動として、「何!?カフェ」を実施した。本稿では、2018年度におけるジェンダー・ワークショップ「何!?カフェ」の実践を報告する。本稿は、実行委員の中の2名が話し合いながら共同で執筆した。執筆者の清水は学部2年から、佐竹は学部1年から実行委員会に携わっている。

「何!?カフェ」とは、ジェンダーやセクシュアリティに関する事柄を切り口に様々な「何!？」をカフェ形式で自由に話し合うワークショップである。

「何!？」の中には例えば「LGBTって何?」や「何で女がサラダを取り分けなければならないの?」「ジェンダーの問題って何があるの?」といった疑問や憤り、違和感などがある。

2018年度の「何!?カフェ」は、「日常の“何”を考える」「教育の“何”を考える」「メディアの“何”を考える」といったそれぞれのテーマのもと、全3回の日程で実施した。

「何!?カフェ」に至った経緯は以下の通りである。まず、実行委員会のメンバー全員が話し合いを通して、自身の「何!？」について向き合っていた。その過程で疑問や憤り、違和感が生まれた。それらを多くの人と共有したり、多くの人が問題を問題と認識したりするためにはどうすればよいかを話し合っていた。そこで、やってみたい企画などを挙げ、どのようなワークショップを開催するかについての話し合いを進めていった。その結果として、前年にも開催された「何!?カフェ」を2018年においても実施することに決定した。

また、話し合いのなかで特に「教育」や「メディア」におけるジェンダー問題について、強い問題意識をメンバー同士で共有できた。具体的には、「教育」に関しての「人の性に対する考えや認識の形成に学校などの教育現場が大きく関わっているのではないか」という問題意識があり、そういった視点からジェンダーを考える必要があると思った」という意見である。さらに、「メディア」に関しての「ここ最近、メディアからジェンダーの問題が見えてくるのが多く感じる。テーマとしてメディアを取り入れることで、今までジェンダーに関心が無かった層の人にも興味をもってもらえるのではないか」という意見である。このことから、それぞれのテーマに特化した何!?カフェの日程も作る事となった。

各回の目的は、以下のように設定した。「日常の“何”を考える」は、日常過ごす中で感じるジェンダーやセクシャリティの疑問や憤り、違和感などをざっくりと話すことを目的とした。「教育の“何”を考える」は、教育現場ではあまり触れられないジェンダー・セクシュアリティの問題について考える機会を設けることを目的とした。「メディアの“何”を考える」は、テレビや広告といったメディアに触れる中で、違和感を覚えたことを話したり、疑わずに触れているものの視点を変えたりすることを目的とした。

各回の様子は以下の通りである。「日常の“何”を考える」では、「モテファッション」や就活における女性の扱いが話題にあがった。「教育の“何”を考える」では、「女子だけの学校生活が長かったので、あまりジェンダーを意識し

て生活したことはない」という意見が出たり、学校現場における性教育について話し合われた。「メディアの“何”を考える」では、メディアによる容姿重視の女子スポーツの表象や、スポーツの経験から自分たちが置かれてきた現状について意見が交わされた。

(佐竹・清水)

2. 「何!?カフェ」で大切にしてきたこと

実行委員が何を大切にしてきたかを明らかにするために、「何!?カフェ」の実践を終えた後、実行委員会内で活動の振り返りを行った。この時、私たちは「何!?カフェ」に取り組むなかでのそれぞれの思いを付箋に記し、模造紙に集めた。そして、互いに書いたことについて説明し合いながら記憶や思いを共有するという形式をとった。この丁寧な振り返りを通して、自分たちがこのワークショップに対して大事にしてきたことが明確になり、言語化することが出来たといえる。ここからは実行委員が共通して大切にしてきた事柄について、実行委員である筆者2人から報告していく。

(1) 「聴く」ということ

筆者(佐竹)がこの「何!?カフェ」実践及び、ジェンダー・ワークショップ実行委員会に参加したのは当時学部1年生だった筆者の必修基礎演習を担当していた矢内琴江先生からの誘いがきっかけだった。大学に入学したてであった当時の私としては、ジェンダーという学問分野が存在すること自体も知らなかったし、もちろんジェンダーに対する知識も無いに等しく、そんな自分が周りのメンバーと同じように実行委員会の一人として活動できるのか不安で、恐怖心のような気持ちもあったように思う。

しかし、実行委員としての活動を重ねていく中で、周りのメンバーが筆者自身のような「ジェンダーについてあまり知らないような人」から出る意見も大切だと捉えてくれ、筆者の意見や気持ちを少しでも汲み取ろうと話を聞いてく

れたおかげで、最初は発言することはもちろん自分の意見を持つことさえも怖かった自分自身の不安や恐怖心も次第に薄まっていった。また、話し合いを通して、いかにジェンダー的な問題が社会の中に存在していて、自分自身も知らないうちに性にまつわる社会的な意識や誰かの言動に苦しめられ、誰かを傷つけていたかもしれないということに気づき、自分や周りの全ての人々がジェンダー問題の当事者であり、誰かの生きづらさに手を差し伸べるためにも、ジェンダーについて学び考えるということの必要性を痛感した。

筆者がこの「何!?カフェ」での実践において大切にしてきたことは、このような実行委員会内での話し合いや、そこでの気づきや学びである。

筆者は実行委員会での話し合いにおいて、他のメンバーの活動に取り組む姿勢からその重要性を感じ取り、「何!?カフェ」において特に「聴く」ということを大事にしてきた。先ほども言った通り、自分自身の意見を持って発言することに恐怖心を持っていたが、周りのメンバーとの対話を繰り返していくうちに自信はなかったとしても、話すことに対する恐怖心は減少していった。筆者は、他のメンバーから、「上手く言葉にできなくても決して否定せず想いを汲み取ろうとしてくれること」や、「自分の発言をきっかけに何かを感じ取ってもらえること」といった「相手の話を聴こうとする」態度を感じ取った。それらの態度の重要性は、自分が実行委員として参加者の方を迎える場合においても同じことが言えると感じた。それがあったからこそ、「聴く」ということを強く意識し大切にしながら「何!?カフェ」というイベントを運用できたように思う。

「何!?カフェ」は普段の生活に対する何!?という不満や疑問を「話せる」場である。「話せる」と感じてもらうためには、「聴く」という行為が必要不可欠だ。先入観を持たず、まず相手のことを理解しようとし、そのために話を聴く。相手の話を「聴いた」うえで、新たなことに気づき、新たな考えが生まれ、自らも話す。「何!?カフェ」におけるコミュニケーションの根幹にあるのは「聴く」ことであったと今、活動を振り返って強く感じる。

また、私は実行委員会内での話し合いを通して、ジェンダー問題が社会もしくは自分の日常に蔓延していて、自分たちが苦しみ、苦しめられていることを認識した。だからこそ、誰もが安心してそれらに対する違和感や自分自身の気持ちを話せる場にしようとし、実行委員同士での丁寧な話し合いを繰り返し、先ほど書いたような「聴く」ことなど様々なことを意識しながら「何!?カフェ」というものを作り上げていった。こうして振り返ってみると、私たちが経験してきたこのジェンダー・ワークショップという学びの営みは、一緒に活動していた矢内先生が述べていたように「ジェンダーについて知るというよりは、他者との関係を構築する方途を共同で探求すること」であったと強く思う。ジェンダーという問題に対しての根本的に大切な考え方自体、この「他者との関係を構築する方途を共同で探求する」ということに帰結するのではないだろうか。

ジェンダーについてはもちろんであるが、この「何!?カフェ」の実践を通して、私は人との対話を通して気づくことの意義や重要性を強く学んだ。このような機会をくれた矢内先生および、共にこの空間を創り上げてきた実行委員のメンバーに心からの感謝を示すとともに、ここでの学びをこれからの繋げていけるよう邁進していきたいと思う。

最後に、振り返りの際、実行委員が出し、「聴くということ」にまとめられたキーワードを列挙する。

- ・「聴く」を軸に対話する
- ・一人一人の言葉を大事にする
- ・各回のテーマに沿ってない話題でも、方向を修正せずに聞く&話す
- ・人の意見を否定しない
- ・聴く+私はどうかを考える+一緒に考えるために伝える

(佐竹)

(2) 相手の立場に立つ

次に、私たちが、大切にしてきたことは、「相手の立場に立つ」ということである。何!?カフェが人と話し合うことを目的としている以上、話す相手を意識することは避けられない。それは「何!?カフェ」に足を運ぶ参加者だけではなく、「何!?カフェ」を企画する実行委員同士にまで及ぶ。相手が、どのような考えを持ち、どのような思いで話し、何を語り、なぜ語るのか、何を聞き、なぜ聴くのかなど様々に相手を意識し続けながら活動してきた。

「何!?カフェ」においては、この相手の立場に立つことを、企画する際に参加者の立場に立つ、実施する際に参加者の立場に立つ、実行委員同士の立場に立つという3点において、重視した。

まず、「何!?カフェ」を企画する際に、実行委員の頭には、常に参加者への思いやりがあった。参加者の立ち位置に立ち、あらゆる想像力を働かせ、「来てよかった」「楽しかった」と言ってもらえるような場を作ることを常に考えていた。例えば、「何!?カフェ」の開催が寒い時期であったので、暖かい飲み物を用意したり、話しながら食べられるように個別包装のお菓子を用意したりした。どのような配慮があったら、参加者が楽しく有意義な時間を過ごせるかという相手の立場に立つことが念頭にあった。

また、「何!?カフェ」を実際に実施している際は、1つの言動に至るまで、相手への思いやりの意識を大事にしていた。それは、自分の言動が相手を傷つけることを認識していたからである。実行委員同士での振り返りで共有された「参加者が、話したいのか、聞きたいのか、わからない」という実行委員の戸惑いは、まさに、参加者の立場に立とうとするがゆえに生まれた戸惑いである。

そして、「何!?カフェ」について実行委員同士で話し合う際も、話す相手のことを常に意識していた。筆者自身、なぜそう思うのか、なぜそのように発言するのかと聞き返された経験が幾たびもあった。実行委員会の中でも、相手を否定せず、立ち止まり相手の立場に立つという姿勢が共有されていたのである。

このように、ジェンダー・ワークショップ実行委員会では、相手の立場に立つということを重視してきた。以上のことから、相手の立場に立つことの意義

を2点見出せる。

ひとつは、相手の立場を意識すると、自分の立ち位置が見えてくることである。私たちは相手と接する時、必ずどこか一定の立ち位置から考え、接している。「何!?カフェ」において、参加者や実行委員という相手の立場を意識していると、自分の立ち位置が、浮き彫りになる。そうすると、自分の立ち位置では当たり前だと考えていることが、相手にとっては当たり前ではないことがある。その当たりの隔たりが人を傷つけてしまうのである。自分の立ち位置を意識することで、自分の言動が相手に与える影響を考えるようになり、無意識に人を傷つけてしまうことを防ぐことにつながる。

もうひとつは、多様な価値観を許容することにつながることである。実行委員は、「どんな人が来てもいいように」や「どんな話を聴いてもまずは受け止めて」ということを意識し続けた。まずは、自分の価値観をひとまず置くことが重要である。それが、相手を受け止める第一歩である。相手を受け止めることは、自分の価値観から離れ、相手の立場に立ち、考えることである。そして、受け止めることができはじめて、受け入れることができるようになり、価値観を許容することにつながるのである。

「自分はわからないけれど」や「そうは言っても」、「本当は」と言った前置きの言葉の言葉の後に、ジェンダーやセクシュアリティを批判、否定する言葉が出てくるのは、自分の価値観から離れられず、相手を受け止めていない姿勢の現れである。それは、自分の価値観を絶対視し、自分とは遠い相容れない価値観として、排除しているといえる。まずは、自分が思ってしまうことを一旦置いて、相手を受け止めてみる。そのことが相手を受け入れることのはじまりである。

最後に、振り返りの際、実行委員が出し、「相手の立場に立つ」にまとめられたキーワードを列挙する。

- ・自分の経験や考えを一般化せず、それを前提としない会話表現を用いる
- ・最大の想像力を心がけた

- ・話しやすい空気づくり、自然に会話できる環境づくり
- ・来た方にとって良かったかなを考える
- ・話さなくていい人はいてもいいけど参加しているのはここにいる全員という意識を持つ
- ・参加者の参加までのハードルとプレッシャーを取り除く
(清水)

おわりに

本稿では、ジェンダー・ワークショップについて概括し、2018 年度の「何!?カフェ」の経緯や目的を記し、活動の中で、大切にしてきたことを述べてきた。

ジェンダー・セクシュアリティの問題は、未だに根深く偏見に溢れ、バッシングや攻撃が横行している。「最近、LGBT という言葉が流行ってきているから」とか、「こういうこと言うと怒られちゃうね」などと言った言葉の後に、差別を平然と口にする場面に何度も出くわす。こういう言葉を使う人は、ジェンダーやセクシュアリティの問題があることは、認識しているが、他人事で考えているのである。

ジェンダー・ワークショップ委員会では、他人事ではなく、いかに自らの問題として捉えてもらえるか、つまり、当事者性を広げていけるかを課題の 1 つと捉えて活動してきた。活動を継続していくことで、他人事の問題に立ち止まり、相手の話を聴き、相手の立場に立つことを通して、自らの問題として捉えてもらえる一歩となることを信じている。

(清水)

資料：宣伝の際に作成したチラシ

「何!?カフェ」とは?

「何!?カフェ」の「何!？」は例えば「何で告白は男子からすべき?」「女子力って何?」「そもそもジェンダーの問題って何が問題なの?」などの疑問や憤り、違和感を表しています。今年で2年目となる「何!?カフェ」は来てくれる人にとって〈0→1〉の場になることを願っています。〈0→1〉に込められた思いとは、

- 1つ目に〈無意識→意識〉それまで問題だと思っていたことを問題だと感じるきっかけ。
- 2つ目に〈個人→共〉一緒に考える誰かに会うことができるきっかけ。
- 3つ目に〈白紙→何か〉ここから人それぞれ違えば何かの入り口、スタートになることのきっかけ。

例えば「学校での整列、何でわざわざ男女別なの?」「何でこのCMには父親の姿は出てきてないの?」など、気になることや疑問を集まった人どうして自由に話します。私たち、ジェンダー・ワークショップ実行委員会は、今までジェンダーに関心がなかった人や卒業でジェンダーをテーマにした人などの、1年生から4年生の学部生や院生の集まりです。普段は「このドラマの表現が…」「親の言っていたことが…」とお互いが持っている疑問や違和感を共有しています。そういった話し合いを積み重ねる中で、自分たちだけではなくもっと色んな人たちと話をしてみたいという思いが大きくなり、今回企画をしました。お一人でもお友達と一緒に、気軽にお願いします!

12月13日(木) 17:00~18:30
「日常の“何”を考える」
@戸山キャンパス31号館1階103教室

「女子力高いね」とか「男なんだら」のような日常の中で投げかけられる言葉などの些細なことからトランプ大統領の女性蔑視発言に至る大きなことまで違和感を覚えることがあると思います。このセッションではそういった違和感を共有する場をしようと思っています。日々疑問に感じたこと、生きづらいと感じたこと、憤りを感じたことなど自由に話しませんか。なんとなく人と話したい、人の話を聞きたいという方も是非!

12月21日(金) 18:15~19:45
「教育の“何”を考える」
@早稲田キャンパス3号館2階201教室

性にまつわる無意識的な差別や偏見は、周りの環境などの影響で子供の頃の時点ですでに持ってしまうのではないのでしょうか?その環境要因として、真っ先に挙げられるのは学校、教育だと思います。学校は子供たちにとっての社会と言えるほど大きな存在です。ですが、実際、教育や教職にまつわる授業でもジェンダー・セクシュアリティに関わる問題はあまり触れられていません。このセッションは、そういった教育現場におけるジェンダー・セクシュアリティの問題について考えられる機会になればと思います。

1月10日(木) 17:00~18:30
「メディアの“何”を考える」
@戸山キャンパス31号館1階103教室

普段目にするテレビや広告などのメディア。テレビといってもバラエティやアニメなど、広告といっても電車の中吊り広告にある脱毛の宣伝やCMなどなど…たくさんあります。そういった多様なメディアに触れる中で、あれ?おかしいな?と違和感を覚えたことはありませんか?何も疑わずに見ているものを、いろんな人と話したり、視点を変えたりしてみることで、いつも違う「何か」が見えてくるかも…。多くの人が見聞きするメディアだからこそ、そこに隠れるジェンダーの問題に目を向けてみませんか?

コーヒーやお茶
お菓子、軽食
用意しています。
何も考えていなくても、
何も分からなくて覗いてみる
というだけでも、大歓迎です!

全学共通副専攻「ジェンダー研究」全体活動



何!?カフェ

12月13日(木)
17:00~18:30
「日常の“何”を考える」
@戸山キャンパス
31号館1階103教室

12月21日(金)
18:15~19:45
「教育の“何”を考える」
@早稲田キャンパス
3号館2階201教室

1月10日(木)
17:00~18:30
「メディアの“何”を考える」
@戸山キャンパス
31号館1階103教室

✿ 参加費無料

✿ 申込不要

✿ 途中入場/退出自由

主催 ジェンダー・ワークショップ実行委員会、早稲田大学ジェンダー研究所
後援 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター
早稲田大学ダイバーシティ推進室

問い合わせ Mail: waseda.gender.studies.inst@gmail.com
HP: <http://waseda-gender-studies-inst.jimdo.com/>



Twitter
@nanicafe2018

Instagram
@nani.cafe